



毎年度、JA 青年部の協力のもと、学童農園での農業体験をとおして、食の大切さを学びながら、元気に楽しんでいきます。



壱岐市消防本部の方々を講師としてお招きし、AED 講習会を実施しました。

【目次】

- P1... 表紙
- P2... 研修部研修会
- P3... 母親部研修会
- P4... 会長あいさつと表彰
- P5... 吉永春陽堂さん
- P6... PTA 活動紹介/編集後記

No.36 2021.03.03
発行 : 壱岐市 PTA 連合会
構成 : 広報部
住所 : 芦辺町中野郷西触 362 番地
電話 : 0920-45-3713
E-mail : iki1625pta@gmail.com

～研修部 研修会～

【演題:子どもたちのメディアとの向き合い方と親としてのかかわり】

講師:古野 陽一 氏

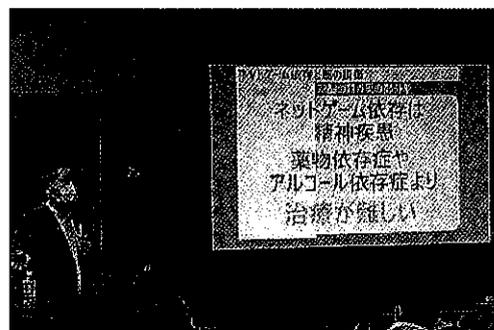
株式会社喜楽学舎代表取締役 NPO法人子どもとメディア全国ネットワーク担当常務理事

令和2年11月27日(金) 場所: 岐阜市役所那賀支所大会議室



研修部は11月27日、岐阜市役所那賀支所大会議室で研修会を行いました。研修会では株式会社喜楽学舎代表取締役でNPO法人子どもとメディア全国ネットワーク担当常務理事の古野陽一氏を講師に招き、『子どもたちのメディアとの向き合い方と親としてのかかわり』というテーマで部員ら約30名が参加しました。

研修会では新型コロナウイルスの流行により、インターネットのオンラインで世界が繋がり、生活が成り立つなど、インターネットの影響が増大しており、子どもたちも同様にゲームやLINEなどオンライン社会と関わる機会が増えている。そのような状況の中で必要なこと、心身に与える影響、予防策について具体的なデータを交えて説明を受けました。



きたい。」という声がありました。

古野氏は「スマホなどの電子メディアの利用は睡眠など健康にも影響があるので、生活習慣の改善のためにも、夕食後(寝る前の2時間)はメディアに触れない生活を一度試してみてください。」と呼びかけられました。

オンライン社会対応能力チェック(全12項目一部抜粋)

- ① 自分の気持ちや考えを、相手が理解できるような言葉や文章で、きちんと伝えられる
- ② 感情的になっても、自分の行動を抑えることができる
- ③ 自分と異なる意見、批判的な意見でも、きちんと聞いて考えることができる
- ④ スマホ・ネットでやっていることは、すべて管理責任者(保護者)に見せられる
- ⑤ 何が起きたら管理責任者(保護者)に相談すべきか理解しており、実行できる

※本人と保護者による評価で、全項目(12項目)が「まあまあできている」以上の評価でないと、「自分のスマホを持つ」「オンラインゲームをする」のに必要な力が足りないということ。5項目でも難しい。

オンライン社会で必要とされる能力は社会に出ると必要となるものと同じ
⇒インターネットの世界はシビアな社会そのもの



～第2回 母親部 研修会～

【演題：笑顔づくりのコミュニケーション】

講師：国立大学法人長崎大学准教授 矢野 香 氏

令和2年11月30日（月） 場所：那賀地区公民館

今年度2回目の母親部会は、元NHKキャスターで国立大学法人長崎大学准教授の矢野香さんに来島していただきました。『笑顔づくりのコミュニケーション』をテーマに講演が始まり、講演の冒頭から【量より質】を大切にと、質の高いコミュニケーションが大事であるとお話しされました。親が子どもに対し、「ダブルバインド」をするとコミュニケーションの質が下がってしまうそうです。「ダブルバインド」とは、第一のメッセージ「怒らないから正直に言いなさい」、第二のメッセージ「何でそんなことしたの!」と「正直に言えば怒らない」というメッセージに従い、正直に答えると怒られるというように、二つの違う矛盾した意味のメッセージを相手に命令することで、相手を混乱させストレスを与えるといったコミュニケーションの指し指します。コミュニケーションの質を上げるためには、一日一回は必ず子どもと目を合わせるが大

切。目線を合わせて会話することでコミュニケーションの質が上がるため、わずか45秒でいいので、相手と同時に目を合わせてクオリティの高い会話を意識することが大事だそうです。

また、目を見て会話をするのが苦手な方は、相手(子ども)の顔に「疑問」をもつ。例として、相手のまつ毛を探す(本数を数える) 感じて会話をすることで目力が増し、コミュニケーションの質を上げることができるようになります。研修会に参加された皆さんも実際に目を休感するため、周りの方とディスカッションを行うと皆さん素敵な笑顔で楽しそうに会話が弾んでいました。



※ディスカッションの様子

【参加者からの質問】

・思春期に入った子どもと会話がありません。会話が弾むコツなどを教えてください。
・父親と娘の会話がありません。年頃の娘なので仕方ないのですが。

【回答】

◆答えをもらえるような質問を心掛ける。クローズ質問とオープン質問がある。いろいろな答えがあるものがオープン質問。返事(はい、いいえ)、相槌で終わる質問はクローズ質問。

◆答えを仕込むことが大切。今日話題になったことは翌週の話のネタにするとうい。

【参加者からの質問】

・マスクを着用していると、表情が分からないときがあります。マスクを着用していても笑顔だとわかる方法はありませんか。

【回答】

◆目じりのしわや眉毛で確認。「アイブローフラッシュ」といい、一瞬だけ眉毛が上がります。すぐに下がることがあり

ます。何かを発見した時の興味がアイブローフラッシュとして現れます。言葉に「えっ!」や「あっ!」といった!マークがつくようになりアクションを相手にさせるような質問や言葉を使うことで、相手の表情が分かりやすいです。

今回の取材を通じ、挨拶や食事の際などに質の良いコミュニケーションを意識し、相手の顔や目をしっかり見て会話することが大切であると再確認できました。

現代のネット社会による通信機器の普及により、親子ともが会話する機会や時間が減っていませんか。そんな中でもほんの45秒で質の良いコミュニケーションが取れるので、会話する際は相手の顔や目を見て話すことを意識されてはいかがでしょうか。

今後もPTA活動を通じていろいろなことを学び、子どもたちと共に成長していきたくと思います。

日頃より、吉崎市PTA連合会の活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今まで経験したことのない事態に、家庭でも日々心配が尽きません。皆さんも同じような状況にあるのではないかとお察し申し上げます。

しかし、そのような状況の中でも、子どもたちは成長を続けています。その時々柔軟に対応するには生きる力を身に付けること、そして心身の成長と自立のため、家庭・学校・地域をつなげ、協働して子育ての環境を上げることが更に重要になっています。

本年度は、様々な活動がやむを得ず中止となりました。コロナ禍において多くの活動が制限され開催が困難な状況の中にあっても、私たちが学びの歩みを止めるわけにはいきません。

この吉崎市は、2018年6月にSDGs(持続可能な開発目標)未来都市に指定されました。

吉崎市PTA連合会においても、気持ちも新たに、家庭・学校・地域が協働し、理念である「誰ひとり取り残さない(No one will be left behind)」という思いを共有し、今後の活動に取り組み挑戦していきます。



吉崎市PTA連合会会長
藤江 武宏

令和2年度長崎県PTA個人表彰を拝受し、感謝の気持ちでいっぱいです。

吉崎市PTA連合会会長・副会長、郷ノ浦中学校PTA会長・副会長を同時に務める中で多くのことを学ばせていただいたように思います。

PTA会長としては委員会の仕事に参加したり、授業参観に行ったりしていたのに、PTAとの繋がりは正直あまり意識していなかったと思います。会長を引き受けたものの、初めは右も左もわからない状態だった私を先生方やPTA会員の皆さんが温かく支えてくださいました。

今まで繋がりのなかった方々と知り合う機会を得て、子どもたちと日々向き合っていて過ごして下さっている先生方の熱意を肌で感じ、会員の皆さんとも家庭での子どもとの付き合い方について意見を聞いて、考えさせられたり共感したりと多くの気づきを与えられた2年間でした。

大変な事も多くありましたが、役員の方々とのお会いを通してできた絆に支えられ無事任期を終えることができました。

2年間本当にありがとうございました。

人の世は 回る絵巻きの 糸車

日高 誠治



一歩・一食・一育

石田小学校PTA会長 板川 幸広

この度、私ども石田小学校PTAが、日本PTA全国協議会から優良団体として表彰を受けることとなり、感謝の気持ちでいっぱいです。現会員そして歴代会員を代表して心からお礼を申し上げます。

本表彰の要因となったのは、過去3年間の食育に関する取組です。

この取組を振り返って思うのは、私たちPTAが一歩踏み出したこと、一歩ずつでいいから歩み出したことが、子どもたちにつながったということです。

指定を受けた研究期間は終わり、その歩幅は多少狭めることはあっても、これからも一歩一歩の歩みを重ねていきたいと思ひます。

それが、私たちの大切な子どもたちの素晴らしい一育につながることを信じて。

給食のパンとごはん🍷

吉永春陽堂 吉永さんへ

☆感謝状☆

令和2年3月までの64年間、香岐の学校給食の提供に御尽力いただいた吉永春詔(はるつぐ)さん、敏子(としこ)さんへ藤江会長より感謝状が贈られました。

香岐島内の子どもたちはもちろん、島外から赴任してきた先生方にも「おいしい」と人気のあるパンとごはんをありがとうございました。

インタビュー

🔪 一日の仕事の流れは？

パンの日は午前0時に2人で種を仕込み、寝かせて、4時から従業員と本こねにかかります。それからパンを焼き上げ、配達、12時半頃に配達が終わっていました。

ごはんの日は前日に洗米して準備、午前4時から炊き始めて8時から従業員と一緒に準備、パンの日より少し早く11時半に配達が終わっていました。

🔪 どここの学校に配達されていましたか？

最初は郷ノ浦町と勝本町の小中学校に配達していましたが、最終的には石田町と芦辺町の小・中学校にも配達して、多い時は4000食作っていました。

🔪 大変だったことは？

配達に行った時に次の日の注文をもらって作っていたことです。

どんなこと(作る量、停電等)にも対応できる設備を整えないといけませんでした。

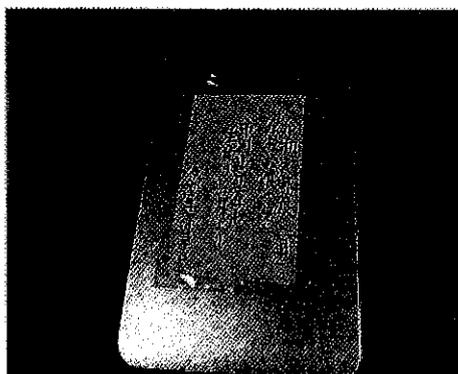
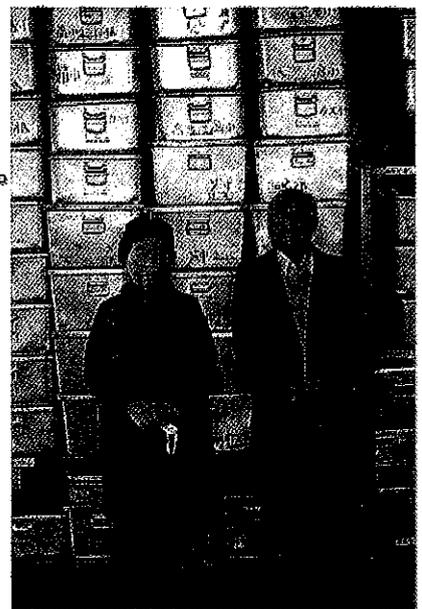
🔪 最後に一言お願いします！

子どもたちが「おいしい」と言ってくれたことがうれしく、子どもたちからもらったたくさんの手紙は宝物です。

突然降って沸いたような新型コロナウイルスにより、給食も中途半端に終わったことは本当に残念でなりません。

長い間勤めさせていただいただけましたのも、皆様の御理解と御支援があったからこそと深く感謝申し上げます。

今後も児童生徒の皆様の成長を見つめながら、お元気で御活躍されますことをお祈り申し上げます。



↑この缶の中にぎっしり感謝の手紙が入っています。

PTA活動紹介

霞翠小学校



— 夢やあこがれを抱き、志の実現に向けて努力する霞翠っ子の育成 —

霞翠小学校の児童は、今年度 94 名です。霞翠っ子育成協議会(翠の会)では、「自己表現がきちんとできる子ども」を重点目標とし、学校・家庭・地域社会が一体となってそれぞれの立場で実践しています。

本校独自の行事として、どろりんピック(田植え前のしろかきイベント)、ごみゲッツ(児童、先生方、保護者で一日十数キロ歩きながらごみ拾いをする)、わんぱく相撲大会などが開催されています。また、毎月第3土曜日には、子どもの体験交流支援「かすいどんぐり隊」として、地域の方、先生方、保護者の協力の下、子どもたちと楽しい活動を行っています。

他にも、図書ボランティアによる「ゆめたま組読み聞かせ」、地域の老人会の方々によるふれあい活動「かすい応援隊(昼休み)」、翠の会地域実践部による「あいさつ運動」などが行われています。



ごみゲッツ



どんぐり隊



霞翠っ子育成協議会

田河小学校

— たくましさと わかちあう心もち、進んでがんばる子どもの育成 —

今年度、田河小学校では、新型コロナウイルスの影響で、春開催していた運動会を10月25日(日)に延期して開催しました。田河小学校の運動会といえば空一面の鯉のぼりです。毎年、先生方と保護者と協力して準備をしています。秋晴れの空に気持ちよさそうに泳ぐ鯉のぼりは運動会ががんばる『たがわっ子』を見守っているようでした。

11月20日(金)には学校保健委員会の活動の一環で『親子フィットネス』を実施しました。コロナ禍で運動不足になりがちな状況のため、家庭でもできる簡単な運動を紹介して欲しいという要望が多く、初めての取組となりました。吉崎市スポーツ推進員を講師に招き、親子ペアで様々な運動にチャレンジしました。低学年と高学年で時間を分け、密にならないよう工夫して行い、笑顔あふれる時間となりました。



空一面の鯉のぼり、準備も手慣れたもの



親子ペアで様々な運動にチャレンジ

【編集後記】

今年度は新型コロナウイルスによる影響で、行事・イベントが中止や延期となるなど、様々な活動に影響があった一年間でした。後期の発行は勝本町と芦辺町が担当し、各学校の活動や本年度の市PTAの活動等をお伝えしました。コロナ禍を乗り越えるため各学校で工夫して活動されていることを、原稿を作る中で感じました。本紙で得た情報等をPTA活動や御家庭でも活用していただければ幸いです。御協力いただきました皆様、ありがとうございました。 広報部一同